

自主防災組織を設立しよう

◎ 備えあれば憂いなし

地域の力で

まちを守る

市は、昨年の岩手・宮城内陸地震の経験を踏まえ、現在、自主防災組織の設立を強力に進めています。市民の皆さんには、近い将来起こる可能性が高いといわれている宮城県沖地震などの災害に備え、積極的に組織化に向けて取り組み「災害に強いまちづくり」を進めましょう。

■ 問い合わせ 各総合支所消防防災担当課



■ 自治区別自主防災組織設立状況 (H 21.1月現在)

自治区	世帯数	自主防災組織加入世帯数	世帯加入率 (%)
水沢区	22,131	1,458	6.58
江刺区	10,378	1,581	15.23
前沢区	4,417	503	11.38
胆沢区	4,781	4,516	94.45
衣川区	1,402	490	34.95
合計	43,109	8,548	19.82

※昨年度から組織化に積極的に取り組んでいた胆沢区で加入率が高いことが分かります

自主防災組織ってなに

自主防災組織とは、隣近所の人たちが協力して「自分たちの地域は、自分たちで守る」ことを目的に、災害発生時はもちろん、日ごろからさまざまな防災活動に取り組み組織です。特に、地震などの大規模災害の直後には、安否の確認が人命救助に大きくかかわってきます。隣近所の人たちが集まって、お互いに協力しながら安否の確認や情報連絡に組織的に取り組むこと(共助)が大きな力となります。この役目を担うのが自主防災組織です。

自主防災組織への支援

本市の自主防災組織設立に当たっては、規約・組織図・連絡系統図などの作成が必要になります。各総合支所の生活環境課または市民環境課消防防災係は、自主防災組織設立に関する相談に応じています。お気軽にお問い合わせください。

本市の自主防災組織の現状

市は、昨年の岩手・宮城内陸地震

● 自主防災組織の重要性

早急な救助が生死を分ける

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、3万5,000人が生き埋めになりました。そのうち、近隣住民が救出した2万7,000人(77%)のうち8割が生存していました。しかし、消防・警察・自衛隊が救出した約8,000人(23%)の半数が亡くなりました。特に災害発生から24時間以内の救出は、生存率が高く、家族や近隣の人たちの救出の重要性が分かります。このことから、身近な自主防災組織は、人命救助の分野でも大切な役割を果たします。

【平成15年版 防災白書】



Interview

自主防災組織だからこそできる “いざ” というときの細かい安全確認



わたしたちの会は、平成20年5月にできました。奥州市に大きな被害をもたらした岩手・宮城内陸地震が起きたのは、会が組織されてからすぐのことでした。このときは、地区内の班長が中心となって高齢者や1人暮らし世帯を訪問。消防団が回り切れないような細かい部分の安全確認を行いました。

◎ 大畑平部 落自主防災会

会長 佐々木光治 さん
【胆沢区・67歳】

8月には胆沢区が行う防災訓練が大畑平を会場に行われ、約130人の地区民が参加しました。災害が起きたときに何をすればいいのかということは、誰もが頭では分かっていること。しかしそれを実際に訓練することでしっかりと体で覚えることができました。また災害時に誰がなにをするかという地域ぐるみの防災体制も再確認できました。

これからも、行政や消防団と連携しながら、災害に強いまちづくりを進めていきたいと思っています。